

平成27年度 第6回 諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議

開催日時	平成27年12月21日（月） 14：00～15：45
開催場所	諏訪市役所第1委員会室
出席者	<p>【諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員】 柳澤慶子委員、中嶋博美委員、宮坂友子委員、岩波寿亮委員、今井高志委員、坂内陽子委員、青山正博委員、藤沢晃委員、林直樹委員、山崎三千代委員、佐久秀幸委員、金子ゆかり委員</p> <p>【諏訪市まち・ひと・しごと創生本部】 平林隆夫副市長、小島雅則教育長、関基総務部長、河西秀樹企画部長、伊藤幸彦市民部長、土田雅春健康福祉部長、飯塚隆志経済部長、竹内桂建設部長、湯沢広充会計管理者、宮下隆水道局長、高見俊樹教育次長、松崎寛議会議事局長</p> <p>【事務局】 木島清彦企画調整課長、前田孝之企画調整係長、牛山智哉企画調整係主査、小松智恵企画調整係主任</p>
<p>【次第】</p> <p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>3 報告事項 (1) パブリックコメントの実施結果について</p> <p>4 協議事項 (1) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略（最終案）について</p> <p>5 意見交換</p> <p>6 その他</p> <p>7 閉会</p>	
<p>1 開会 河西企画部長より開会宣言があった。 なお、宮坂勝太委員、平尾委員、牛山委員が都合により欠席となった。</p> <p>2 市長挨拶 (金子市長) まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向け、会を重ねてきた有識者会議だが、今日で第6回目を迎えることになった。委員の皆様には大変忙しい中、何度もご足労いただき熱心に討議いただいたことに厚く御礼申し上げたい。 平成27年中の決定に向け計画どおり作業を進めてきたが、去る12月9日、パブリックコメントを締め切り、いくつかのご意見をいただいた。過去5回の有識者会議で、皆さんからいただいた意見については、整理をして総合戦略にできる限り反映させる作業を重ねてきた。今日は、いよいよ最終版となり総仕上げとなる。引き続き皆様の意見をいただき、より良い総合戦略が完成できることをお願いし、冒頭の挨拶とさせていただきます。本日もよろしくお願ひしたい。 (河西企画部長) それでは、以下の進行については、会長の金子市長にお願いしたい。 (金子会長)</p>	

報告事項に先立ち、定足数の確認を事務局よりお願いしたい。

(事務局)

有識者会議の委員数 15 名中、本日出席委員が 12 名で半数以上となり、定足数に達していることを報告する。

3 報告事項

(金子会長)

それではさっそく報告事項から始める。報告事項「(1) パブリックコメントの実施結果について」、事務局よりお願いしたい。

報告事項(1)について、資料 No.1 に沿って事務局から説明があった。

(金子会長)

それではパブリックコメントに対して質問を受けたいが、どうか。

(委員から質問なし)

4 協議事項

(金子会長)

次に協議事項に移りたい。協議事項「(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略(最終案)について」、事務局から説明をお願いしたい。

協議事項(1)について、資料 No.2 に沿って事務局から説明があった。

5 意見交換

(金子会長)

今回は最終案ということで、質問・意見同時に全て一括で諮りたい。自由に質問・意見等を出していただきたい。

(A委員)

広域的な連携による取組のページは、6 市町村が全く同じように採用して、そこに載ってくるということか。

(金子会長)

それぞれの市町村に、共同して載せるという約束となっている。

(B委員)

前回こちらの会議に出たときに、観光課に寄り、諏訪市のパンフレットを見せてもらった。きれいな時計やオルゴールなど諏訪市独特のものが載っていて、とても良いパンフレットだった。そういうものを外国の方が見たとき、とても良い印象を受けるので、ぜひインバウンドの政策に使っていただきたい。それで製品を買っていただけたらなお良いと思う。見て、買ってもらって、地域が活性化する。どんどん循環して諏訪地域が発展すれば良いと思った。

(事務局)

意見ということでいただく。38 ページに観光プロモーションやインバウンドのことが書いてあるが、来年は観光に特化したプロモーションビデオや諏訪市を発信するためのプロモーションビデオ作成に向けて予算化の準備を整えている。発信力も非常に重要だと思っているので、意見を参考にしながら取り組んでいきたい。

(C委員)

資料を読み、広域でやろうということが書かれており良い取り組みだと考えている。特に、「合同説明会で人を呼び込もう」とか「諏訪湖を共同できれいにしよう」とか、そういったことで住む人、あるいは観光客を呼び込もうという取り組みが、非常に素晴らしいことだと思う。諏訪市1市でできないことを6市町村でやればできることもあるので、ぜひ進めて欲しい。

観光のことも若干書いてあったが、中国や東南アジアからの観光客が非常に増えており、「爆買い」という言葉も流行語大賞に決まったが、欧米系の外国人観光客も地方を回っているので、ぜひそういった方も呼び込んで欲しい。外国人観光客は、ツイッター、フェイスブックなどSNSで観光地の良いところを発信してくれるということもあるので、諏訪地域内が活性化あるいは諏訪市が活性化して良い方向へ行くのではないかと。

(金子会長)

C委員の仕事の立場からアドバイスをいただきたい。

(C委員)

会社は鉄道事業で、地域のお客様をお運びする事業なので、ぜひ観光に力を入れていただきたい。弊社としても観光PRに協力して、お互い車の両輪のように鉄道利用も促進され、観光も活性化していければ良いと思う。併せてぜひ良いまちづくり、諏訪市の駅前の話も出ているので、諏訪市の玄関である上諏訪駅前を整備していただき、きれいなまちづくりに協力できればと考えている。

(D委員)

計画なので、全てのことを盛り込んで文面として言いきれないということもあると思うが、そこから「じゃあ、こんなことができる」という発想をどんどん加えながら、市民が参加できるという形にしていければ良いと思う。

(金子会長)

今、発言いただいた市民参加ということだが、市議会議員の皆様にも意見をいただいた。冒頭でも事務局から説明があったように、御柱は、市民一人ひとりが小綱を持って引っ張る。そうなるように進めてほしいという意見をいただいた。これはあくまでも計画で、目標値を持っている。これを達成するために、こんなアイデアとか、こんなことができるというのを皆さんからいただき、5年間の計画の中で目標を達成できるよう盛り上げていただければ大変うれしい。E委員はどうか。子育て等々で意見があろうかと思うが。

(E委員)

全般的に良くまとまって、皆さんの意見が反映されているのではないかと。出産後の子育て支援や出産前の支援などは、今までの話し合いの結果がだいぶ盛り込まれている。また、Uターン、Iターンのために、高校生や大学生の支援ということはだいぶ盛り込まれてきているが、小中学生の教育について、どちらかというと手薄なのかなという気がする。

母親が仕事に復帰するという部分では、小学生の低学年や学校が休みのときのサポート、地域のサポートが一番気になる場所だと思うので、今後、そういったところを考えていただけるとありがたい。

父親のイクメンについては、イクメン雑誌みたいなものがだいぶ出てきているので、広報誌などに地域のイクメンの父親などを載せてもらったりすると、より近い形で他の参加がみられると思う。

(金子会長)

小中学校の教育に関してだが、ものづくり教育と冒頭にある。教育委員会は、ものづくり教育をより専門的にやっただけではないが、総合戦略との関連について事務局でコメント

があったらお願いしたい。

それから、学校の長期休暇中のサポート体制については初めての議論だと思うので、事務局の見解と皆さんから意見をいただきたい。

(事務局)

ものづくりを基軸にしたことについてだが、地元回帰のきっかけということで、子どもたちがここに住んで、故郷というのを意識してもらうために、諏訪市というのはものづくりがあって、学校で学んで、体験することによって、「僕たちの育ったまちってこういうまちだ」というのを理解してもらう。そういうことを学校だけではなく、企業や地域、みんなでやっというものが主に書かれているコンセプトの趣旨である。そういうことを今までは小学校、中学校とやっているが、高校、大学についてはなかなか取り組めなかった部分があったので今回書き込んでいる。プラットフォームをつくり諏訪市にまた戻って来るようなサイクルを考えて記載している。

4 ページの基本コンセプトは、やはり最後は「ひと」だと思っているので、原点回帰のきっかけ、ものづくりの楽しさ、郷土愛、そういった言葉を盛り込んでいった。

(金子会長)

小中学校の教育については、全体的に意図するところを今のように表現で盛り込んで、具体的な教育内容については、教育委員会の施策の中で充実させていっていただきたい。具体的な教育内容について、教育委員会の方でも吸収していただき取り組んでいただきたいが、教育長にコメントをお願いしたい。ものづくり教育について、小中学校の、まち・ひと・しごと創生戦略に関する教育の充実について、もう少し書き込んだ方が良いのではないかとこの提案についてどうか。

(小島教育長)

教育については、全部書いたらとてもきりがなく、内容的には総合戦略一冊が終わるぐらいは入ってくる。そういう中で象徴的に代表してピックアップされたのがものづくり教育だと思う。当然そこには基礎学力だとか、学習の習慣とか、ごく日常的なところで充実させないといけない課題はいっぱいあるが、こと細かには書いてないということでお分かりいただきたい。

(E委員)

書ききれない部分ではあると思うが、小中学校という部分の話合いがあまりされなかったのかなという気がしたので、意見として述べさせていただいた。

(金子会長)

今の指摘については、教育の具体的な内容を詰める中で反映するというようお願いしたい。

休暇中の子育て支援、夏休み等の長期休暇支援体制についてだが、子育てしやすいまち、仕事をしながら魅力あるまちにするためにこの計画の中に謳うとしたら、どのようにとらえたら良いか。

(F委員)

学童保育については、もともと長期の休みのときはみてもらえなかった。数年前から拡充されており、諏訪市も充実していると思うが、まだ足りないということか。

(E委員)

仕事を持っている母親たちは、以前から預けていれば預けられるが、仕事に復帰するとなったときに、もう少し敷居が低くなると良いなという気がしている。

(F委員)

私が聞いたところでは、学童保育に入れる条件として、働いていないと入れられないとい

うことで、働く前提で保育園のように預け入れができない。保育園は、これから仕事を探すというので、2〜3か月くらい猶予がある。しかし、学童保育には猶予が無く、預けるにはまず働いていないといけないという難しいルールがある。

(事務局)

放課後児童クラブは教育委員会が所管しているが、もともと学童保育は厚生労働省の所管であり、就労家庭支援という国の制度の中で作られているので、F委員のおっしゃるとおりの原則となっている。ただし、国の制度も徐々に変わってくる中で、対象児童も小学3年生までから4年生まで、現在は6年生まで広がっている。諏訪市においては、指摘のとおり、休業中の単独預け入れ等も実施しているので拡充している。

(金子会長)

そういったご要望等も含めて、若干、加筆できるところを研究したいと思う。文言等については、最終的には本部会議もあるので、こちらの方にお任せいただくということで良いか。

(F委員)

よい。

(金子会長)

先ほどのイクメンについても、具体的な事業の中でそうしたものを取り上げる等々、啓発に努めていきたい。

(F委員)

ワーク・ライフ・バランスの所で少しお願いがある。57ページの主な取組の所で「男女がともに働きながら安心して子供を産み育てられる環境整備」にあたり、そのための啓蒙活動をしようと思うが、子どもが生まれたばかりの父親の教室でこれができないかなと思う。タイミング的にはここが大事である。本当はもっと早くしたいが、もし、こういったセミナー、教室を考えているのであれば、早い段階でやるにしても、父親教室でやったら良いのではないか。

(金子会長)

今の提案は、具体的に取り組む事業の中で入れていくということで考えていきたい。G委員はどうか。

(G委員)

総合戦略をみて、私自身も勉強になった。この冊子が多くの人の目に止まって、少しでも「諏訪市って良いところなんだ」というのを、実際知っていただけると嬉しいと思う。先日、助産師の講座があり参加したが、諏訪市はとても恵まれているとおっしゃっていた。産科医、病院が選べられるとおっしゃっていて、実際、甲府市とか、伊那市や塩尻市など遠くから諏訪市へ受診に来られる方がたくさんいらっしゃるということで、実際、住んでいて気付かなかったが、諏訪市はそういうところはすごく恵まれているんだと感ずることができた。本当に良いことがたくさん書いてあるので、皆さんに読んでいただき、今後、良いまちにつながっていけば良いと思った。

(金子会長)

H委員はどうか。

(H委員)

内容については特段ない。この政策自体に、いかに多くの人に関わって、いかに多くの人に知ってもらって協力してもらえかが肝になってくると思う。その中で、SNS等の発信を強化していく、検討していくと書いてあるが、こういうところを老若男女問わずいろんな人がやっていけば良いと思う。それを諏訪市が1つのキーになり、いろんなサポーターが一緒になって情報発信していく仲間というのが、今時の情報発信のトレンドでもあると思う。最

近だと、ユーチューバーだとか、そういったところからの発信が非常に大きなポイントにもなっているの、それが様々なところに波及していくということもある。そういうところからも、うまく仲間作りができていけたら、この戦略が形になっていくの一番近いと感じた。

(金子会長)

事業をやることに一生懸命になってしまうが、情報発信も重要である。非常に良い指摘をいただいた。庁内でも情報関係のセクションと連携しながら、時代にマッチした取組を皆さんのご協力いただきながら進めていきたい。

(I 委員)

かなり読みやすい内容に構成されていて良いと思う。また、最後の用語説明も非常に丁寧で良いと思うが、いくつか、「連携中枢都市圏」、「ハザードマップ」など読む人によっては、まだ分からないものがある。せっかくここまで、56もの用語集を付けたので、どこまでやれば良いか分からないが、できれば子どもに一読させて分からない言葉だとか、お年の方に読んでいただいて、もう少し手を加えれば全ての言葉が網羅されて勉強にもなるかと思う。かなり丁寧な印象を受けたので、レベル感がよく分からないが、そういった形で探ってみていただければと思う。

(金子会長)

I 委員として、説明が必要な用語と思われるものを一両日中にいただければと思う。他の委員も、同じような指摘があればお願いしたい。

(J 委員)

諏訪市役所の職員の皆様方は大変優秀だと思った。細かくこれだけのものをつくりあげるといことは大変なことだと思うが、今の若い世代の皆さん方は、おんぶに抱っこにねんねまでしてあげないと自分が成長できないのかなというふうに、一つ寂しさも感じている。生きる意欲だとか、将来に向かって自分がどういう生き方をしていくのか、自分でなかなか考えられないと言うか、このように手取り足取りしてあげて、そして大きくなって結局、子どもだとか、家庭だとか、なかなか人の手を借りないとしていけないという世代であると感じる。この年代になると大変寂しく感じる。これだけ細かくしてあげなければ、市という一つの行政単位が、住民の皆さんが納得できないのかなと思う。

観光についても今までいろいろな意見を聞いているが、パンフレットやチラシを刷って配るだけで、それで何となく仕事が済んだ気持ちになっているということがある。先程、観光のプロモーションビデオやもっと目で見せる映像を積極的にしていただけることに対して、大変ありがたく思う。

学童保育の件だが、小学1年生から3年生までが、今度は1年生から6年生までになっている。1年生から6年生というのは世代が違うくらいの感覚の差があるので、そういう子たちを一同に集めて、狭い中で教育をしていくというのは大変なことだ。それがもっと多くなってくると、今度は場所の確保と学童保育の先生たちの確保が必要だ。これは学校の先生とは違うので、精神的な負担だとか、時間的制約の問題等々がある。この問題について、小学生の学童保育を一律的に輪切りにしてしまったのでは、本当の意味の教育ができるかどうか不安だ。母親たちの自覚、父親たちの自覚というのが、そういうことによって置き去りにされてくる。子どもたちとの接触率だとか、子どもたちに対する愛情だとか、そういうことが大変希薄になってくるんじゃないかという気がしてならない。細かくすること自体は大変良いことだと思うが、この中に愛情を持った一つひとつの実行力がないと、ただ絵に描いた餅になってしまうことがあるのではないかと思う。また、安全・安心だとか、防災だとか、そのまちのあり方について本当に研究をしてもらいたいと思う。

そんなことをお願いすると同時に、一つ紹介したいことがある。観光協会にある方から電話があった。諏訪湖畔を夫婦で子どもをベビーカーに乗せて歩いていたら、雨が降ってきたので、お土産屋さんへ寄り、ベビーカーにかぶせるビニールの風呂敷がないかと尋ねたところ、奥へ行き、諏訪市の大きいゴミ袋を持ってきて、ビニールの風呂敷はないが、ゴミ袋があるので、これでどうかと言ってくれたと。それがとても嬉しくて、諏訪市というところはすごいという電話があったそうだ。優しさだとか、おもてなしというのは、ビニール袋の風呂敷はありませんかと言われ、ただ、ありませんと答えるのではなく、自分の台所に行って諏訪市のゴミ袋を持ってきて掛けてあげるといふ気持ちにある。そのゴミ袋は私たちの記念品になりましたという電話がきたとのことで、とてもジーンときた話だったので、紹介させていただいた。

(金子会長)

大変重たい意見をいただいた。この最終案については、皆さん一人ひとりの意見をできるだけ汲み取って策定を進めるとともに、見せ方も御柱になぞらえたり、御柱が何であったり、地域でどんなものであったり、どんなふうに関わってもらいたいのか、また6市町村との連携をどんなふうに盛り込んで示したらより魅力的に見えるだろうかと事務局のスタッフが知恵を絞ってまとめたものである。これを5年の間で目標数値を達成すべく、全庁あげて、市民全員で取り組んで行くわけだが、取り組んで行く中であって、どんな意識で、どんな心づもりで取り組むのかで、総合戦略の成否に大きく関わると思っ拝聴させていただいた。

(A委員)

今頃言うてはいけないが、観光という視点から言ったときに、4つの柱の中で、二之柱に「行ってみたい」という言葉を加えた方が良いような気がする。

(金子会長)

二之柱の中に、「行ってみたい」という表現があっても良いのではないかという意見についてどうか。

(事務局)

二之柱の1つ目の項目で、『知っている』から、『行ってみたい』まちへ」という表現をしているが、表題のところで、「住んでよかった」、「戻ってきたい」、「住んでみたい」、ここへ「行ってみたい」と付け加えた方が良いということか。

(金子会長)

確かに観光という意味では、「行ってみたい」ということで、視点が2つできるということになる。

(事務局)

対応するようにしたい。

(金子会長)

それでは、いつもまとめだけしか発言をお願いしなかった藤沢副会長はどうか。

(藤沢副会長)

まず、今日で第6回、副会長としての御礼ということで、長期間にわたる審議、本当にご苦労さまでした。また、先程J委員からもありましたが、大変な量のボリュームをまとめていただいた事務局の皆様方の努力も本当に感謝している。

私の経験で一言申し上げたい。今回、非常に良かった点は、今までの諏訪市政であったことの他に、今回の総合戦略で新しく盛り込んだ施策を前段で記載することで、内容が分かりやすくなったことだ。しかし、新しい施策に関して、こういう方向で行きたいと全部書いてあるが、具体的にいつまでに実行するのかは次の段階で、毎年毎年、諏訪市で事業化されるものと思っている。総合戦略を掲げて実施が伴わないということはないと思うが、例えば、

観光消費額が格段と上がるために具体的に何をするのかということをご明快地にいただき、やった記録を振り返りができるような形でお願いできればありがたいと思う。

(金子会長)

重要な指摘だと思う。副市長からもお願いしたい。

(平林副市長)

委員の皆様、長いこと本当にありがとうございました。お忙しい中、お時間を割いていただいたことに改めて私からも御礼申し上げます。藤沢副会長から話があったが、進行管理というのは行政にとっては一部不得手なところがあると思う。立てた目標に向かってどのように進んで、それをどう具体化していくかというところが一つの課題だと思う。それから、先程 J 委員から話があった放課後児童クラブ、学童保育の話だが、私の長い行政経験の中で考えていることは行政の守備範囲である。昔と違ってこういう時代で、行政はどこまで何をすれば良いのかを常々悩んでいる。また、皆さんの知恵をお借りしながら進めていきたいと思うので、今後ともよろしくお願いしたい。

(金子会長)

教育長からも一言お願いしたい。

(小島教育長)

今回、大きな諏訪市の創造ということだが、様々な場面で、人間は創造の場面があるんだろうと思う。未来のことを考えるのはとても楽しいことだと思う。厳しい面はあるが、そういった創造活動は、まず楽しいワクワクするものでありたいと思っている。諏訪市がこうなる、こうしたいというものがあって、それがワクワク感につながったら、みんなやる気が出るのではないと思う。行政が、誰かが何かをしてくれることも大事だが、一員である自分自身が何をできるかが大事だと改めて思った。

(金子会長)

これだけは最後に言っておきたいということをお持ちの方、発言をいただきたい。

(委員から発言なし)

(金子会長)

6 回に亘る大変重たい課題であったが、委員の皆様には大変活発に、また、造詣の深い意見・指摘をいただき誠にありがとうございました。いただいた意見を参考に、諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の最終案を調整したい。平成 27 年中という約束なので、最終のまち・ひと・しごと創生本部会議が 12 月 25 日にあり、この日の会議をもって決定として、まとめさせていただく。本日いただいた指摘については、事務局にて調整をさせていただくことで一任をいただきたい。それでよろしいか。

(拍手をもって全委員了承)

(金子会長)

ありがとうございます。ここまで苦勞し、特徴のある総合戦略ができあがってきたと思う。先程来、委員の皆様より指摘があるように、この戦略をこれから成果が上がるものにしていくために何をしなければならぬか。具体的に事業として何を盛り込んでいくかということが、これから私たちに求められていることと思うので、鋭意努力して、より良い輝く諏訪市ということで、魅力あるまちをつくっていききたいと思う。本当に長い期間、協力と指導に深く感謝を申し上げ挨拶としたい。ありがとうございました。

それでは、以下の進行を河西企画部長に戻したい。

(河西企画部長)

その他について事務局からお願いしたい。

6 その他

事務局より今後の説明があった。

林委員より資料の説明があった。

7 閉会

(河西企画部長)

最後に、藤沢副会長から閉会の挨拶をお願いしたい。

(藤沢副会長)

本当に長期間、長時間ご苦勞さまでした。金融機関も諏訪市としっかりとした連携をしていきたい。また、産業振興に充分努力していきたいと思っているので、地元の金融機関を今後ともよろしくお願いしたい。地域のために頑張っていくので、よろしくご指導いただきたい。本当に長時間ご苦勞さまでした。

(河西企画部長)

どうもありがとうございました。お疲れさまでした。